

別紙

新規化学物質の名称：

(1) 試験サンプルの純度、不純物及びその含有量、粒度

純度	
不純物及びその含有量	
粒度	

(2) 試験サンプルを構成する単量体の名称、官報公示整理番号等

単量体の名称	官報公示整理番号	その他番号

(3) 試験サンプルを構成する単量体単位のマール比、重量比

構造式	
マール比	
重量比	

(4) 物理化学的安定性試験結果及び酸・アルカリ溶解試験結果

試験液	DOC変化				重量変化*2				I R スペクトル変化			分子量分布変化						
	DOC濃度 (mg/L)			有機炭素可溶化率 (%) *1	重量 (mg)			重量変化率 (%)	試験前	試験後	変化の有無	平均分子量 (平均値)						
	試験前	試験後	Δ DOC		試験前	試験後	Δ W					Mn		Mw		Mw/Mn		変化の有無
												試験前	試験後	試験前	試験後	試験前	試験後	
pH=4.0																		
pH=9.0																		

1 有機炭素可溶化率 (%) = (ΔDOC / 理論値) × 100 *理論値 (mg/L) = 被験物質の試験濃度 (mg/L) × 有機炭素含有率 (%)

*2 DOCの分析が適切でない場合は、重量変化について記載すること。

pH4.0の試験液	種類*3	調製方法*4

*3 T G111 に採用されている緩衝液又は無機溶媒を記載すること。

*4 無機溶媒を使用した場合は、その調製方法を記載すること。

(5) 水・有機溶媒溶解性試験結果

測定溶媒	DOC変化				重量変化*6					
	DOC濃度 (mg/L)			有機炭素 可溶化率 (%) *5	平均値 (%)	重量 (mg)			重量変化率 (%)	平均値 (%)
	試験前	試験後	ΔDOC			試験前	試験後	ΔW		
水										

5 有機炭素可溶化率 (%) = (ΔDOC / 理論値) × 100 *理論値 (mg/L) = 被験物質の試験濃度 (mg/L) × 有機炭素含有率 (%)

*6 DOCの分析が適切でない場合は、重量変化について記載すること。

測定溶媒	重量変化				
	重量 (mg)			重量変化率 (%)	平均値 (%)
	試験前	試験後	ΔW		
テトラヒドロフラン					
ジメチルホルムアミド					

(6) 分子量及び分子量 1,000 未満成分の含有率

分子量分布図	
数平均分子量 (Mn)	
重量平均分子量 (Mw)	
Z 平均分子量 (Mz)	
分散度 (Mw/Mn)	
分子量 1,000 未満成分の含有率	
溶離液	
分子量換算方法	

